

1 第五次総合計画について

(1) これまでの総合計画

・長井市ではこれまで、5つの総合計画を策定

・時代に合わせたテーマや目的を設定

長井市総合計画

(昭和45年12月策定)

○基本構想・計画の年次

1970年(S45)～1979年(S54)

○計画の目的

- ・統一のない場当たり行政では、当面するこれらの問題を解決することは不可能。
- ・経済社会の変動の激しい時代にあって行政は常に変化に対応できるように体制を整備する。
→ 市政の総合計画策定の必要性

第二次長井市基本構想

(昭和53年6月策定)

○テーマ

水と緑と花のながい、活力とやすらぎのまち

○基本構想の年次

1978年(S53)～2000年(H12)

○基本計画の年次

1982年(S57)～1990年(H2)

○まちづくりの目的

- ・基本構想により、望ましい将来像を描きまちづくりの目標を設定する。
- ・基本計画の策定方向を明確にし、市政運営の方針とする。
- ・まちづくりに市民が参加することで、積極的な活動の展開を期待する。

第三次長井市基本構想・基本計画

(平成5年3月策定)

○テーマ

水と緑と花のながい～生活の舞台のあるまち～

○基本構想の年次

1993年(H5)～2011年(H23)

○基本計画の年次

1993年(H5)～2002年(H14)

○構想の目的

- ・21世紀の本市の将来像を描き、まちづくりの目標を設定する。目標、施策の大綱を明らかにし総合的で計画的な基本計画の方向性を示し、市政運営の指針とする。
- ・まちづくりへの市民参加の概念を明確化し、市民の英知と熱意をまちづくりの実践活動に結集できるようにし、市、市民、企業の役割分担と協力のもとに、積極的な活動を展開し真の市民自治を確立する。

第四次長井市総合計画

(平成16年3月策定)

○テーマ

協働・創造・未来の鼓動 実感“ながい”

○基本構想・基本計画の年次

2004年(H16)～2013年(H25)

○市の将来像

- ・市民と行政が手を携えて協働による街づくりに取り組み、市民が能力を発揮できる新しい社会のシステムを創造し、また、独創的で旺盛な経済活動により新しい価値を創造し、未来を切り拓いていこうとする強い動きを実感することができるまちを将来像とします。

長井市第五次総合計画

(平成26年3月策定)

○計画の目的

人口減少に向き合い、30年後も50年後もしあわせに暮らしていける「持続可能なまち」を形成する

○市の将来像

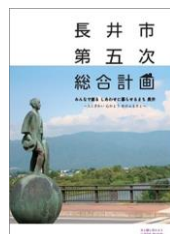
みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井 ～人にぎわい 心かよう 水のふるさと～

○基本構想の年次

2014年(H26)～2023年(H35)

○基本計画の年次

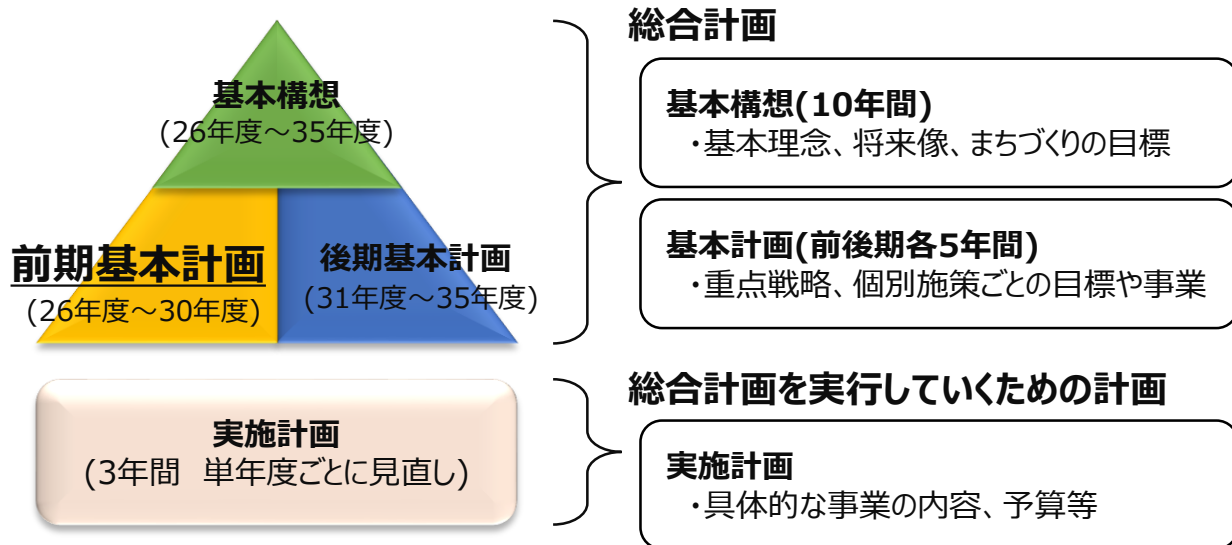
前期：2014年(H26)～2018年(H30) 後期：2019年(H31)～2023年(R5)



(2) 第五次総合計画の構成

① 計画の構成と期間

- ・第五次総合計画は10年間の基本構想と、前後期各5年間の基本計画で構成
- ・総合計画を実行していくための計画として、3年単位の実施計画を毎年度作成

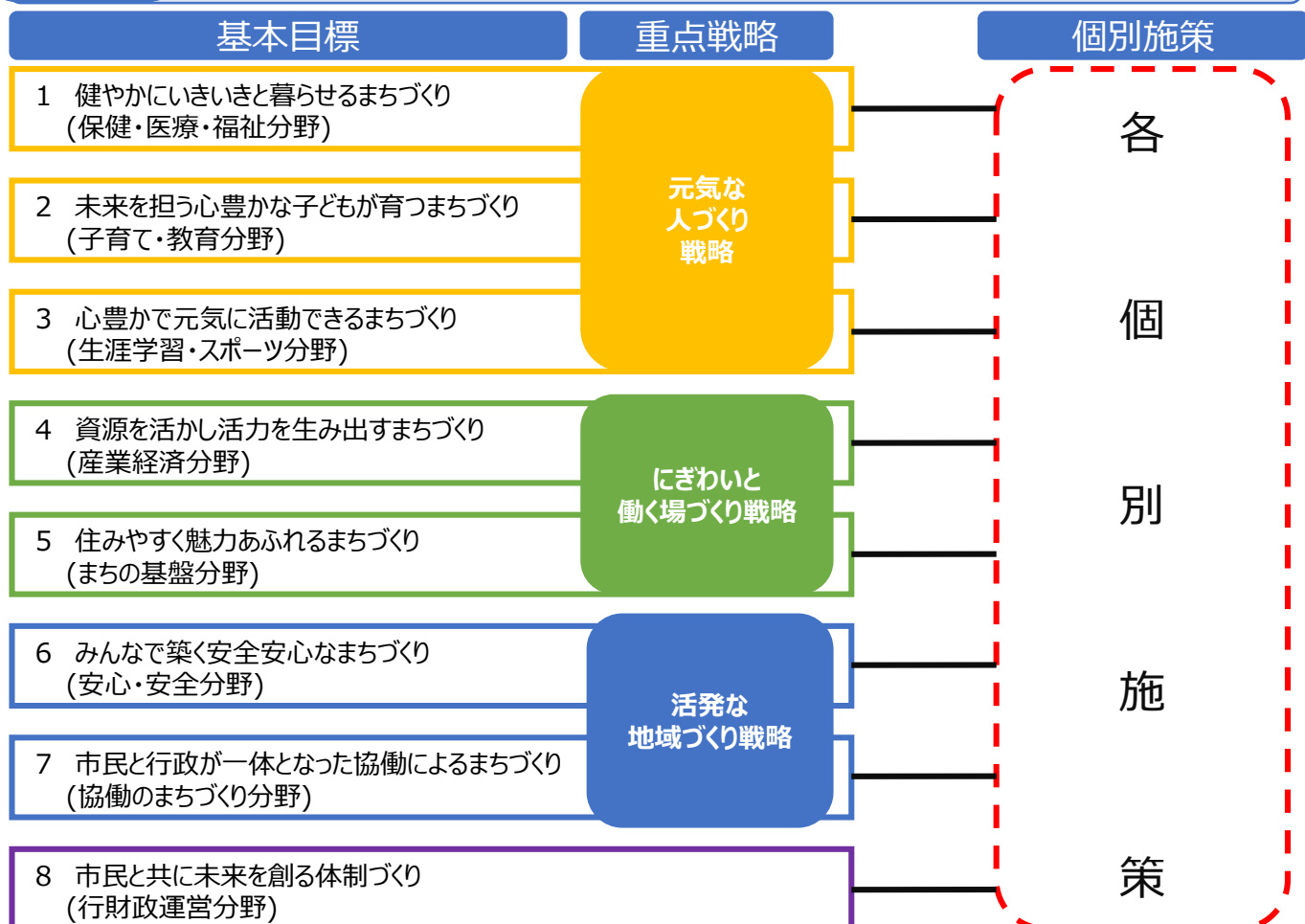


② 前期基本計画の構成

- ・基本計画は、8つの基本目標の達成に向けて取り組む具体的な個別施策や各分野を横断して重点的に取り組む重点戦略の内容を示すもの

将来像

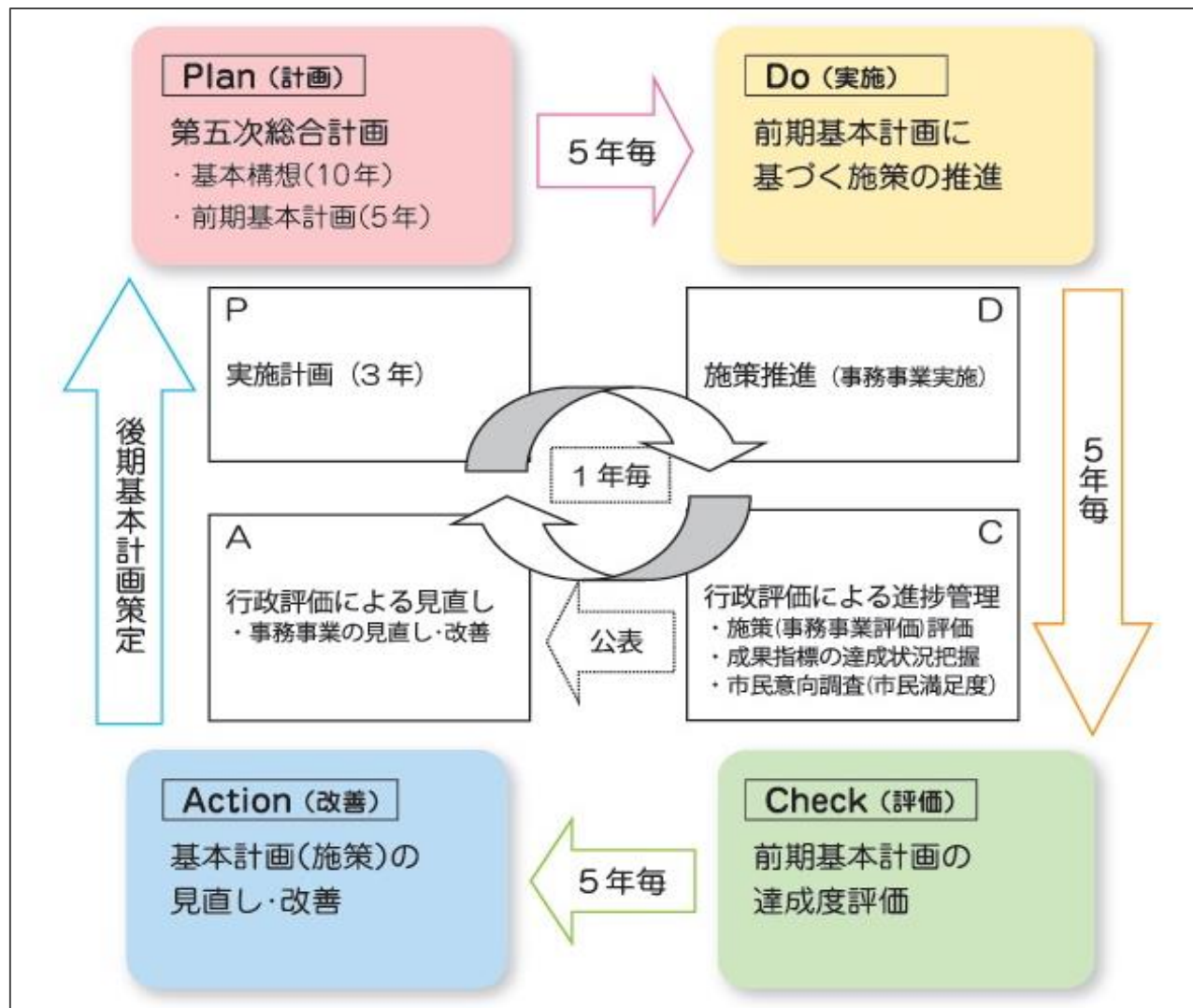
みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井



(3) 前期基本計画の進行管理について

①PDCAサイクル

- ・行政評価によるPDCAサイクル(小さいサイクル)
 - ⇒ 成果指標をできる限り数値化し、事務事業の実施内容毎年度評価
- ・前期基本計画に基づくPDCAサイクル(大きいサイクル)
 - ⇒ 前期基本計画における施策の実施状況や社会状況の変化等を踏まえ、後期基本計画を策定



※『第五次総合計画』 85ページ抜粋

②振興審議会による進行管理(H27からH30まで)

i 行政評価について

- ・市で行った行政評価について、毎年度、振興審議会に報告
- ・評価を元に、委員から今後の市の事業展開や評価のあり方について提言
- ・H30は後期基本計画の策定に向けて行った前期基本計画の総括を実施

ii 市民アンケートについて

- ・平成24年から2年に1度市民アンケート調査を実施し、結果を振興審議会に報告
- ・委員からアンケート調査の結果を受けた市の事業展開等について提言

2 前期基本計画の主な取組

(1) 元気な人づくり戦略

①子どもが健やかに育つ環境づくり

i 子育て世代包括支援センターの開所

- ・平成29年4月、市保健センター内に「すまいるーむ」を開所
- ・子育て、教育、福祉等の相談をワンストップで受付



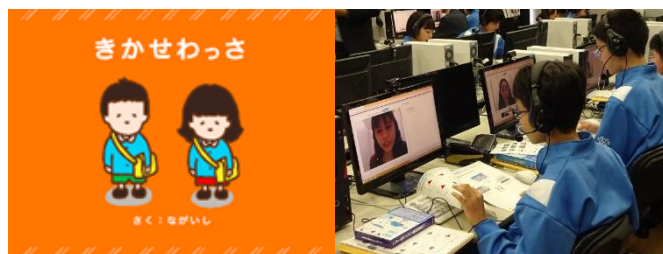
ii 学童クラブの施設整備

- ・平成27年、伊佐沢地区と平野地区に整備
- ・平成28年、豊田地区に整備



iii 早期国語教育、英語教育の推進

- ・平成30年2月、東北大教授の川島隆太氏、陰山メソッド提唱者の陰山英男氏監修による読み聞かせマニュアル「きかせわっさ」を作成し、0歳から小学校1年生までの子どもがいる各世帯に配布
- ・インターネットを活用した外国人との英会話授業を実施



②高齢者が安心して暮らせる環境づくり

i 訪問看護体制の充実

- ・平成29年4月、長井病院内に訪問看護ステーションを開所
- ・平成29年5月からは、24時間対応の訪問看護サービスを開始



ii 介護予防教室の充実

- ・運動機能改善、栄養改善、認知症予防等の教室数を増加



iii 市営バスの利便性向上

- ・平成26年7月、市営バスの路線、本数を強化
- ・平成28年10月より、運転免許自主返納者へ回数券を配布

③心と体の健康力の向上

i スポーツ施設のリニューアル

- ・平成29年4月、市営球場
- ・平成30年4月、あやめ公園テニスコート



ii 長井文化回廊の実施

- ・市内の歴史的な建物等を会場にした文化芸術イベントを開催



iii 東京オリンピック・パラリンピックホストタウンに登録

- ・平成28年12月、東京オリパラにおけるタンザニア連合共和国のホストタウンに登録
- ・登録を契機にタンザニアへの訪問団派遣や長井マラソン大会へのタンザニア選手団の招致、選手団と市民との交流を実施
- ・平成31年には新たに北テンシュタイン公国のホストタウンに登録



(2) にぎわいと働く場づくり戦略

①コンパクトなまちづくりによる中心市街地の活性化

i 観光交流センター「道の駅川のみなと長井」の整備

- ・平成29年4月に、市の観光交流の玄関口として国道287号線沿いに開設
- ・平成31年4月1日に来場数100万人を達成



②まちの活力源である産業の活性化と販路拡大支援

i 農産物の6次産業化支援

- ・平成28年8月、6次産業化推進協議会を設立
- ・平成30年3月、平成31年3月に道の駅で新商品マルシェ「長井市食の見本市」を開催



③長井の魅力を活かした観光と交流の拡大

i 観光地域づくりの推進

- ・平成28年3月に「やまがた長井観光局」を設立。道の駅を拠点とし、観光案内、観光商品の企画・販売を手がける
- ・平成31年には、南陽市、白鷹町、飯豊町と連携し、「やまがたアルカディア観光局」として活動を拡大



ii 「最上川上流域における長井の町場景観」の重要文化的景観への選定

- ・平成30年2月、風景の国宝ともいわれる国の重要文化的景観に長井の町場景観が選定



④多様な雇用の創出と起業支援

i 実践型地域雇用創造事業の実施

- ・平成25年7月から平成28年3月まで、長井市雇用創造協議会が商品開発を実施
- ・「馬肉ラーメン肉まん」や「アスパラ麺」などユニークな商品を開発・販売



ii 創業支援機能の充実

- ・平成28年10月、「イノベーションLab.長井i-bay」を開設
- ・安価なオフィススペースの提供とインキュベーションマネージャーによる創業へのアドバイスを実施



(3) 活発な地域づくり戦略

① 地域の絆を守る地域づくり活動の支援

i 「地域づくり計画」の策定支援

- ・地区ごとの特色を生かした未来へのビジョン『地域づくり計画』の策定
- ・平成31年4月からは全地区公民館がコミュニティセンターに移行
- ・地域に密着した防災・福祉・健康づくりなどの取組を展開



② 防災体制・安全安心の充実

i コミュニティFMの整備

- ・災害時の情報伝達手段となるコミュニティFM「おらんだラジオ」を開設



ii 災害時における相互応援に関する協定の締結

- ・大田区や東村山市など首都圏の自治体とも災害時における相互応援協定を締結



③ 市民が安心して利用できる公共施設の整備

i 「長井市公共施設整備計画」の策定

- ・後年度の財政負担を抑えながら、市民サービスを低下させることなく施設整備を行うため、平成28年11月に公共施設整備計画を策定
- ・市庁舎は令和2年度までの移転新築を予定

